

⑥ 第6委員会

「安全で安心してくらすことができるまちづくり」



それでは、第6委員会の意見を発表します。

第6委員会のテーマは、「安全で安心してくらすことができるまちづくり」です。

このテーマについて考えるため、^{わたし}私たちは、7月25日に特別消防隊の施設見学を行いました。そこで、^{わたし}私たちは、人の命を守るものとして、強い風を出すブローカー車や車に挟まった人を助けるスプレッダー、^{しょうぼう}消防士さんの命を守るものとして、^{しょうぼう}空気の出るボンベや^{しょうぼう}防火服を見ました。そして、最新の人の命を守る^{ぎじゅつ}技術を見て、すごいなと思い、とても安心しました。また、実際の訓練の様子を見ました。そして、大声で隊員同士でコミュニケーションをとって、^{しょうびょう}傷病者を早く安全に助けるために毎日訓練していることがわかり、安心できるなと思いました。

その後、^{わたし}私たちは、施設見学をしてわかったことや感じたことをもとに、名古屋を「安全で安心してくらすことができるまち」にするためには、何をすればいいか考えました。

それでは、^{わたし}私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

今回特別消防隊を視察して、隊員の方々が困難な場面でも、諦めることなく思いやりの心と行動力で僕たちをサポートしてくれているのを強く感じました。

近年大きな災害がふえています。消防隊や行政では、さきの災害の教訓を生かし、市民への支援の準備はできています。では、僕たちはどうでしょうか。自分の身は自分で守り、地域の人たちと助け合う準備はできていますか。名古屋を「安全で安心してらせるまち」にするためには、一人一人の心がけが必要です。責任と思いやりの心を持って、みんなで名古屋を笑顔あふれるまちにしましょう。

○子ども議員

私は、先日の施設見学を通して、特別消防隊の方々の日々の厳しい訓練と努力に感謝したいと思いました。全力で人命を守り、迅速な対応できまざまな特殊な車両や機材を扱い活動される特別消防隊は、私たちにとって心強い存在です。

そこで学校でも防災訓練や社会見学などを通し、隊員の方々の話を聞く機会や、真剣な訓練の様子を実際に見ることができれば、子どものときから防災意識を高めるきっかけになるのではないのでしょうか。その結果、「安全で安心してくらすことができるまち」につながっていくと思います。

○子ども議員

僕は施設見学で特別消防隊へ行き、実際の訓練の様子を見ることができました。大声で隊員同士でコミュニケーションをとって、傷病者を早く安全に助けるために、毎日訓練している様子がとても印象に残りました。

特別消防隊は地震や台風などの災害で救助活動も行ったり、特別消防隊だけの車両や道具があることを知りました。「安全で安心してくらすことができるまち」にするための特別消防隊の活動をもっとたくさんの人に知ってもらい、みんなで協力することが必要だと思います。

○子ども議員

僕の意見を言います。名古屋市を「安全で安心してくらすことができるまち」にするには、特別消防隊についてのことが書かれたパンフレットを、全世帯に配るといいと思います。そうすると特別消防隊や消防隊への関心が高まり、災害や事故が起きたときに、傷病者をスムーズに救出しやすくなるからです。

さらにパンフレットに「災害に備えて造った設備には、このようなものがあります」といった形で避難階段などの写真を載せたりすると、自治会などで「この避難設備いいな、よし、ここでも造っておこうぜ」といったように、被害をより少なくする効果が期待できると思います。もう一度言います。名古屋を「安全で安心してくらすことができるまち」にするには、特別消防隊についてのことが書かれたパンフレットを、全世帯に配るといいと思います。これで僕の意見発表を終わります。

○子ども議員

災害はいつ起こるかわかりません。施設見学では、特別消防隊の救出訓練が印象に残り、日々の特訓によるチームワークのよさや迅速な行動が人命の救助につながると感じました。

南海トラフの災害が懸念されています。大規模な災害にも対応できる特殊部隊や救急車を各区に配置することや、一人一人が地域の人とつながり支え合うこと、家庭での話し合いや訓練を怠らず、真剣に取り組んでいくことが「安全で安心してくらすことができるまちづくり」につながるのではないかと思いました。

○子ども議員

僕が特別消防隊で学んだことを発表します。特別消防隊は、ハイパーレスキュー隊とも呼ばれ、名古屋市に5カ所あります。都市での災害や震災では、航空隊と連携して消火活動や逃げおくれた人の救助活動などを行います。また、船を使い水難救助や海上での消火も行います。ほかにも特別な機械を使い、より早く効率よく災害に巻き込まれた人を助ける工夫もしています。

僕はこの施設見学を通して、ふだんからどんな災害にも対応できるように訓練しているので、安心して暮らせるなどと思いました。

○子ども議員

私は、特別消防隊へ見学に行きました。特別消防隊の皆さんは、常に大きな声でコミュニケーションをとっていて、災害を受けた人でも安心できると思いました。そこには特別な機械と車があり、具体的な救助方法を知ることができました。

もしものことがあったら助けてくれる特別消防隊のことを、より多くの人に知ってもらいたいと思いました。

○子ども議員

私は、施設見学で特別消防隊に行きました。その中で最も印象に残ったのはブローカー車です。ブローカー車は普通の消防車の後ろに大きな扇風機のようなものがついています。

私たちはその風を実際に体験しました。ブローカー車の風はとても強く吹き飛ばされそうになりました。ブローカー車は主に大きな工場の火事やトンネルでの事故に使われています。その理由は、風のほかに水がまけ、早く火が消せます。火事や事故があってもブローカー車があるので安心して暮らせます。

○子ども議員

僕は特別消防隊を見学しました。名古屋市には、5カ所の特別消防隊があります。そのうちの 하나가港区にあり、海での活動を多くしています。ですから、他の特別消防隊にはない船を持っています。地震や災害の対応は他の4カ所で行っています。

全てを消防隊の人に任せると自分の命は守れません。一人一人が少しでも防災用具を集めることや避難経路の確認などの心がけで、自分の命を守ることに繋がると思いました。

○子ども議員

僕は、名古屋市を「安全で安心してくらすことができるまち」にするためには、一人一人の心がけが大切だと思います。しかし、忘れてしまうこともあるので、学校や地域でもっと積極的に呼びかけ、またパトロールをふやすといいと思います。

それでも火事が起きてしまった場合、ほかに燃え移る前に誰でも消せるようにバケツや水などをいろいろな場所に置いてほしいです。消火器は子どもには使いづらく、難しいのでためらってしまいます。

消防署に直接つながるブザーがあると便利だと思いました。これで終わります。

○子ども議員

僕^{ぼく}たちが身近なことで大事なものは避難^{ひなん}です。もし火事があったとき、自分たちでできるのは、しゃがんで口を押^おさえることが大事です。

次に特別^{しょうぼう}消防隊で学んだことです。特に僕^{ぼく}の印象に残ったものは、ブローカー車です。これは風速45メートルで台風よりも強い風です。その風でトンネルなどの煙^{けむり}や熱が出ないところも、このブローカー車^{けむり}で煙や熱を出すことができます。このように特別^{しょうぼう}消防隊では災害^{さいがい}を少なくする努力をしています。

○子ども議員

7月25日の特別^{しょうぼう}消防隊の施設^{しせつ}見学でいろいろなことを学びました。たくさん^たくさんの道具を使って人助けに役立てていました。これが印象に残りました。

訓練は大きな声を出してコミュニケーションをとっていました。「安心安全でくらせるまち」にしていることがわかりました。

わたし

私たち第6委員会は、このようなことが、名古屋を「安全で安心してくらすことができるまち」にするために必要だと考えました。これで、第6委員会の発表を終わります。

■ きのした きのした しょうぼう とうべん 木下都市消防委員長の答弁

第6委員会の皆さん、この3日間、本当に御苦労さまでした、お疲れさまでした。限られた時間の中で、本当に皆さんで話し合っ
て本当に苦労しながらまとめ上げ、きょうの本番では本当に元気いっぱいにご挨拶ができました。本当にすばらしかったです。ありがとうございました。



第6委員会では「安全で安心してくらすことができるまちづくり」をテーマにして特別消防隊へ施設見学に行きました。ふだんはなかなか見ることのできない、そのような車の装備、そして訓練の様子を自分自身の目と耳と、そして体で実感したことは、私はもう一生忘れることができないんじゃないかと思っております。

中でも印象に残ったのは、大きな扇風機のようなブローカー車でありました。風速45メートルの大きなこの扇風機のようなブローカー車、すばらしいこのブローカー車を見て、体感してそれで火事や事故に大変役立っているということを皆さんが知ることができたと思います。

また、こうしたすばらしい車や装備だけではなく、ハイパーレスキュー隊、見たと思いますけれども、この救出訓練では隊員同士が、先ほどもお話があったとおり、大きな声を出し合っ
て、チームワー

クが大変いい、そういった迅速な行動が、人命の救助につながっていることを私たちは目の当たりにしまして、大きなそれは体験であったと思っています。そうやって、防災意識を私たちは高めることができたのではないかと思っています。

特別消防隊の施設の見学を通して「安全で安心してくらすことができるまち」への感謝と、これからのさらなる安全安心のために、地域や家族で話し合ったり、どうしたらよりよいかなど、考えるきっかけになったのではないかと思います。

子ども委員長さん、そして子ども副委員長さんを初めとした12名の委員の皆さんは、きょうまでの間、たくさん考え、たくさん質問をしていただき、活発な議論を行っていただきました。

そして今、皆さんには発表の中でたくさんの方の提案をしていただきました。きょう皆さんから発表していただいた意見や提案は、しっかりと受けとめて、私たち議員も、名古屋市が安全で安心なまちになるよう、最大限努力をしていくことを約束させていただきたいと思っています。

最後になりましたけれども、御協力いただいた浅野副委員長、また鈴木副委員長、また教育委員会の板倉先生に感謝を申し上げまして、答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

